第485号（通巻587号）　平成27年１月10日発行（毎月１回10日発行）　昭和57年６月21日第３種郵便物認可

保育界

2015
1

発行　日本保育協会

自然の保育力を積極的に活かす

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長　田邊龍太

自然との触れ合いは、思いやる心、命やものを大切にする心を育みます。こうした“自然の保育力”を活かすためには、園児が普段生活する範囲内に自然と触れ合う空間を設ける必要があります。ここでは園庭ビオトープの施工や管理活用のノウハウをご紹介します。

樹林や小川、草地が設けられた錦ヶ丘幼稚園（鹿児島県）の園庭／「全国学校･園庭ビオトープコンクール2013」で文部科学大臣賞を受賞

『大切な６つの要素』

ビオトープとは「地域の野生の生きものがくらす空間」という意味です。地域に見られる、草原や池や川、樹林など一つひとつがビオトープと言えます。当協会では、こうしたビオトープを園庭に取り入れ、自然の保育力を積極的に活かす取組を広く紹介することを目的に、1999年より隔年で「全国学校･園庭ビオトープコンクール」を開催しています。今までに8回（16年）開催し、延べ664園・校の実践を紹介してきました。

このコンクールの評価観点は次の6つです。**①地域の野生の生きものがくらしやすい環境づくり。②ビオトープづくりや管理への園児の関わり。③様々な領域などでの活用。④保護者や地域住民、自然の専門家などとの連携。⑤持続的に管理活用するための体制。⑥地域の自然との使い分け。**これらの観点は、園庭ビオトープを有効に活用し、自然の保育力を高めるために欠かせない要素となります。

■環境省主催『東北地方ESD※チャレンジプロジェクト2014』モデル事例の発表

上記プロジェクトにおいて、「是川保育園（青森県）」、「長町自由の星保育園（宮城県）」、「ちとせ保育園（山形県）」の取組が表彰されました。詳しくは関連サイトをご覧ください。

※ＥＳＤ：一人ひとりが、環境とのつながりの中で生きていることを認識し、その上で世界の人々や将来世代に迷惑がかからないよう、未来に向けて地域や生活のあり方を考える教育や保育のこと。